

熊本大学附属図書館報

# 東光原 42

Kumamoto University Library Bulletin

ISSN 0917-7604

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>

July 2005

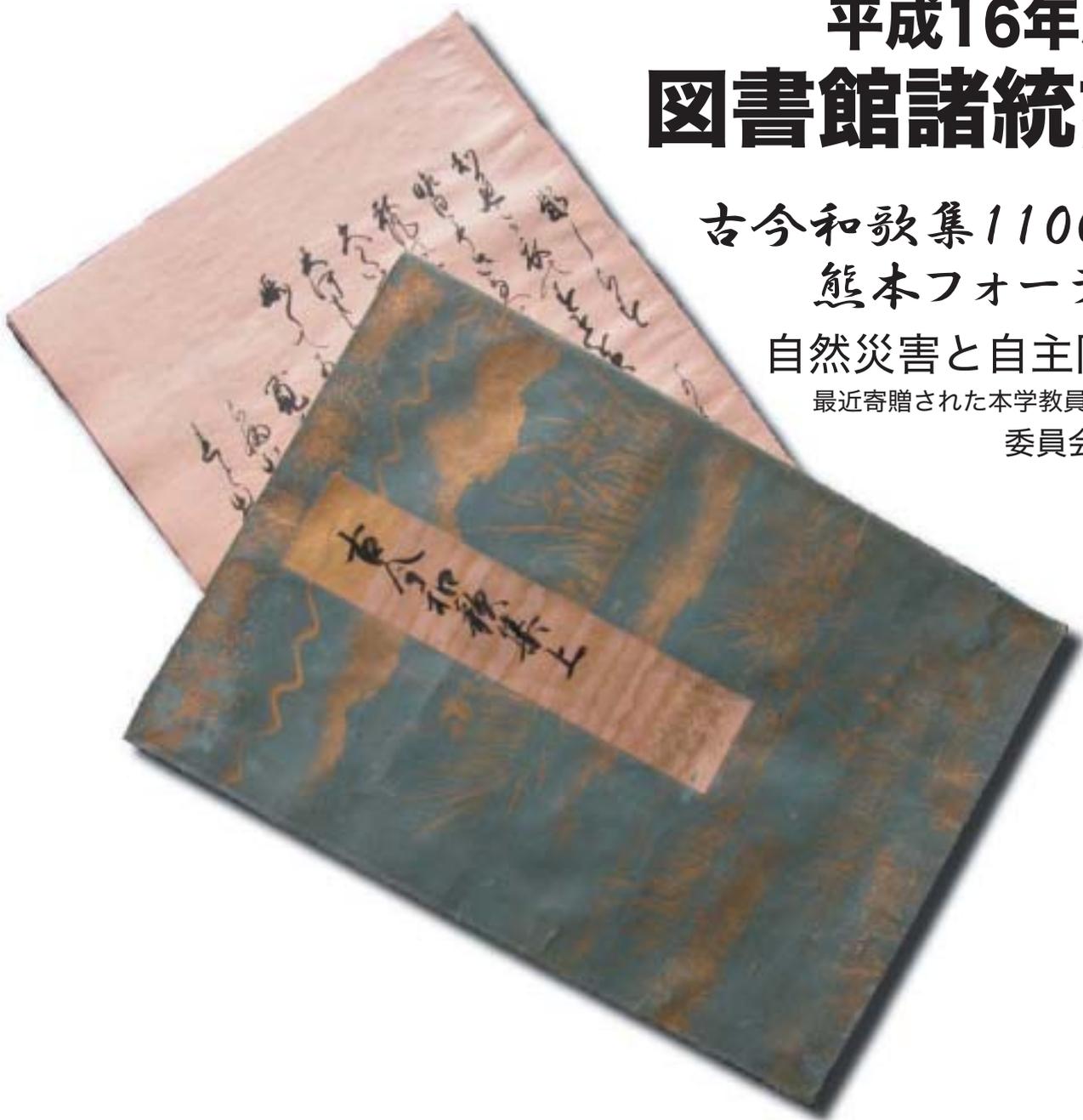
## 平成16年度 図書館諸統計

古今和歌集1100年  
熊本フォーラム

自然災害と自主防災

最近寄贈された本学教員の著書

委員会報告



# 古今和歌集1100年 熊本フォーラム

森 正人

今年は、古今和歌集が編纂されて1100年、新古今和歌集が編纂されて800年という、大きな節目の年に当たります。古今和歌集は最初の、新古今和歌集は8番目の勅撰和歌集です。勅撰和歌集とは、天皇の命令によって編纂される和歌の詞華集で、醍醐天皇の命により延喜5（905）年に成った古今和歌集から、文安元（1433）年の新続古今和歌集まで、21もの集が編まれています。総称して二十一代集という勅撰和歌集のなかで、文学的な達成度も最も高く、文化史的意義も大きい歌集の編纂の年から数えて1100、800という歳月を刻んで今年に至ったというわけです。

この記念すべき年に当たり、昨年から各地のいくつかの機関や施設で古今和歌集と新古今和歌集にちなむ研究集会や展示などの催しが行われていますし、また計画されていると聞きます。文学関係の雑誌でも特集が組まれています。

こうしたなかで、私たちも「古今和歌集1100年 熊本フォーラム」という催しを企画しました。私たちというのは、熊本市内の大学で日本古典文学の教育と研究にたずさわっている、本学文学

部・教育学部、熊本県立大学文学部、<sup>しょうけい</sup>尚綱大学文学部の教員たちです。

催しの趣旨は、古今和歌集とその享受の歴史に関する学術的な整理を行い、古今和歌集が生み出した学芸と文化について知識を広げ、深めるとともに、その成果を大学教育に活かし、平易なかたちで広く市民に提供するところにあります。

主要な催しと日程は次の通りです。

11月4日（金）～6日（日）

貴重資料展（熊本大学附属図書館）

11月4日（金）13時～

和歌の<sup>ひこう</sup>披講に関する解説と実演および学生による研究発表（熊本県立大学）

11月5日（土）

10時30分～

安永<sup>ふきこ</sup>蒞子氏による講演（総合女性センター）

13時～

古今和歌集とその享受をめぐるシンポジウム  
および<sup>しゅうほう</sup>狩野瑋鵬師による能「井筒」の上演  
（総合女性センター）

11月6日（日）13時～

古今集時代の和歌に関する講演（熊本大学附属図書館）



附属図書館の貴重資料展は、本学に寄託されている細川家の<sup>えいせい</sup>永青文庫の古今和歌集とその享受に関する資料を中心に展示します。熊本県立大学で行われる和歌の披講とは、宮中の<sup>うたかいはじめ</sup>歌会始の儀式などで行われる和歌を読み上げる作法について、東京聖徳大学の青柳隆志氏と早稲田大学の<sup>かねちく</sup>兼築信行氏の解説で学び、これを実際に体験しようというものです。5日（土）に総合女性センターで講演

してくださる安永氏は「椎の木」を主宰する歌人、「井筒」を舞われる狩野師は喜多流の名手、ともに熊本が宝とすべきお二人です。シンポジウムは熊本県立大学の鈴木元氏が司会を、青柳隆志氏、お茶の水女子大学の浅田徹氏、星美学園短期大学の高野晴代氏が講師を務めます。また、6日(土)の附属図書館での講演は私が行います。

熊本フォーラムはこれだけではありません。10月に県民交流館パレアを主要な会場として、古今集とその享受に関する4回のプレセミナーを行います。講師は鈴木元氏、県立大学の山崎健司氏、本学教育学部の小川幸三氏、尚綱大学の久多美健氏が担当されます。

ここで、古今和歌集と新古今和歌集を記念する催しがすでにいろいろなところでいくつも行われているというのに、なぜことさら熊本でも行う必要があるのかという疑問を持たれる方もありましょう。私たちは、この熊本で行う意味は大きいと考えます。このことを理解していただくには、古今和歌集の享受史を繙かねばなりません。

古今和歌集は、最初の勅撰和歌集として後代の勅撰集や和歌の規範となりました。そればかりでなく、季節感、自然観、恋愛表現など王朝的美意識の基盤となり、その上に文学のみならず、さまざまな芸術が華開きました。やがて、古今和歌集は単なる古典というよりは、聖典としての位置を占め、古今和歌集に関する学問は特定の人しか伝えることを許さない秘説を生むようになりました。古今伝授と呼ばれます。

その古今和歌集に関する秘説を受け伝え、授けた一人が細川藤孝(号は幽斎、1534-1610年)で、肥後細川家の初祖です。その幽斎が書写した本を含む細川家の蔵書が永青文庫で、本学に寄託されています。つまり、本学附属図書館の図書は古今和歌集の享受史に大きな位置を占めているのです。

古今和歌集は、日本の伝統文化の源泉としてた

しかに大きな役割を果たしましたが、それは一面日本人の発想や感性を呪縛してきたとも言えます。たとえば、明治に入って短歌革新の旗手となった正岡子規は、「貫之は下手な歌よみにて古今集はくだらぬ集にて有之候」(「歌よみに与ふる書」)と酷評

します。これが行き過ぎたものであるとしても、このような激しい否定の言葉を必要とするほど、古今和歌集の権威は高かったということです。とすれば、現代の日本人もまた、古今和歌集的なものの見方や感じ方を知らず知らずのうちに受け継いでいるのではないのでしょうか。

このような意味で、今、熊本で古今和歌集について知ること、その享受の歴史を振り返ってみることは、日本の伝統文化の源流の一つを尋ねることであり、その流れを汲む熊本の文化について知ることであり、そして、現代の私たち自身について省みることにほかなりません。

プレセミナー、図書館の展示、講演、シンポジウムのどれか1つでも結構です、ぜひ足を運んでください。



もり まさと

文学部長・教授

主著：『今昔物語集の生成』

和泉書院 1986

『東アジアの文化構造』

九州大学出版会 1997

#### 【表紙の言葉】

今号の表紙は附属図書館蔵松井文庫「古今和歌集」(箱入)です。

シリーズ研究の周縁より

# 自然災害と自主防災

北園 芳人

## 1. 自然災害

平成15年の水俣市宝川内の土石流災害、平成16年の10個の上陸台風による風水害、同じく新潟中越地震、スマトラ沖の巨大地震、平成17年3月の福岡西方沖地震など、毎年様々な自然災害によって犠牲者や被害が出ている。

その中で土砂災害に遭われたものの幸いにも無事だった人達によると「これまでここは大丈夫だと思っていた」とか「これまでに経験したことのなかった雨、風だった」という話を聞くことが多い。しかし「これまでの経験」とはどれくらいの経験なのだろうか。高齢化が進んだとはいえ、高々100年未満ではなかろうか。

最近の降雨の状況を見ると100年確率を超えるような1時間の雨量が100mmを超す集中豪雨が頻発している。ところが、人間は経験しないとなかなか的確な判断をすることが困難である。そのため、経験したことのない自然災害に遭遇し、人的な被害を受けることになる。

自然災害に関しては戦後の復興のために荒廃地に植林などがなされ、洪水などの発生回数は確実に減少し、被害も減少している。しかし、開発によって新たな危険箇所も増加し、ハード対策も着実に施工がなされてはいるが追いつかず斜面崩壊危険箇所の大幅な減少には繋がっていない。そこで国でもソフト対策として平成13年に「土砂災害防止法」と呼ばれる法律を制定し、それを基に都道府県に「土砂災害警戒区域等」の指定を求め、ソフトとハードの両面から災害対策が必要であることを示している。

しかしながら、ソフト対策も防災情報が住民に

浸透して初めて効力が発揮されるものであり、その情報をどのようにして住民に伝え、浸透させていくかが問われている。すなわち、災害による被害を減少させるためには行政側の防災情報の伝達方法と住民側の収集方法が行政と住民の両者に求められているといえるだろう。

## 2. ハザードマップについて

ハザードマップ〔hazard map：災害（危険区域）予測図〕とは、対象となる災害がいかなる場所（範囲）で、どのように起こる可能性があるかを具体的に地図上に表したものである。さらに避難場所やルートも表示することで、地域住民に日頃から災害危険箇所と災害時の行動の自覚を助長することができる。

その自然災害ハザードマップには災害の種類別に次の5種類がある。火山ハザードマップ、洪水ハザードマップ、津波ハザードマップ、地震ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ

これらのハザードマップの作成は進んでいるものもあるし、これから整備されるものもある。早急な整備が望まれる。

## 3. 土砂災害危険箇所とハード対策

土砂災害には土石流、地すべり、急傾斜地崩壊が含まれ、全国で50万箇所以上、九州でも10万箇所以上あるといわれている。熊本県内では約13,500箇所以上の土砂災害危険箇所があるとされている。

しかし、このうちハード対策が施されているのは熊本県内でも20%程度に過ぎない。残りの危険

箇所全ての砂防堰堤や擁壁等のハード対策が施工されることは経費や期間等の問題から非常に困難である。そのため、人的被害を免れるためには、早急なソフト対策が必要である。

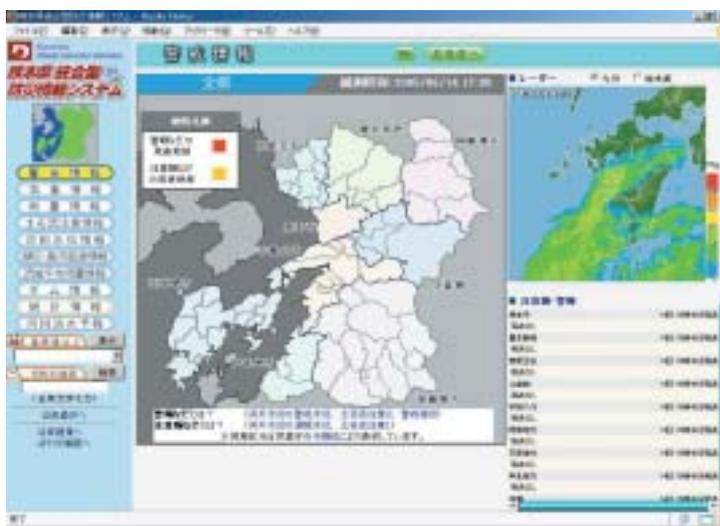
#### 4. 熊本県のソフト対策

熊本県では平成13年に「土砂災害防止法」が制定されたのを受けて、熊本県の基礎調査の技術基準を策定し、平成16年度からこの技術基準を基に基礎調査に取り掛かっている。

これは土砂災害の危険のある箇所を「土砂災害警戒区域」「土砂災害特別警戒区域」の2段階で評価し、特別警戒区域ではその区域内での開発や居住を制限できるもので、地域住民にはその内容を公開し周知される。

また、水俣市の土石流災害を教訓に防災情報の伝達方法の見直しや防災情報そのものを見直すために雨量基準の見直し作業にも着手している。

防災情報の伝達については、行政から行政へばかりでなく、住民へもいち早く伝達されるように平成16年6月からは、熊本県のホームページに図のような「熊本県統合型防災情報システム」<sup>1)</sup>が公開された。防災情報の内容は雨量情報、土砂災害警戒情報を中心に8項目を見ることができる。



熊本県統合型防災情報システム

土砂災害警戒情報は雨量の情報を基に観測所ごとの土砂災害発生の危険性を示した画面で、現在の降雨状況だけでなく1時間後や2時間後の予測雨量を基に土砂災害の危険性が図示され、現在の状況と過去の災害発生時の状況を比べられるように工夫されている。



熊本県雨量情報 (iモード)

#### 5. 自主防災

この様にハザードマップ、災害危険箇所の公開、土砂災害危険情報の公開(ホームページ上)、雨量状況<sup>2)</sup>を上記ホームページや携帯電話のiモードでみることもできる。住民はこれらの情報を用いることで現在の自分の住んでいる地域の防災情報を取得できるようになり、これを参考に自主避難などの対策を建てるようになってきた。

そこで必要となるのが自主防災組織である。

自主防災組織とは、自助、共助の組織で災害に対して地域で防災に取り組む組織である。防災に関する現状は、气象台を通して発表される注意報や警報があるが避難については行政から避難指示を待っている状態である。しかしながら、その指示の伝達に時間がかかり手遅れになることがある。

被災を防ぐには自ら積極的に防災情報を取得し、これを基に自主避難することが自分の身を守ることである。しかし、地域には災害弱者と呼ばれる高齢者、子供、障害者も居られるので被災をできるだけ避けるにはお互いに声を掛け合って避難する必要がある。そのためには災害に対する地域住民の共通の理解が必要で、日頃からの防災に対する活動が重要である。これらの活動を行う組織が自主防災組織である。

自主防災組織は人に頼るのではなく、一人一人が役目を担い共同で被災を防ごうという考えかたである。ところが熊本県内の自主防災組織率は平成15年度現在で20数パーセントである。全国平均は60%に近い、東海沖地震や東南海沖地震が予想される静岡県内では100%に近い市町村もあるといわれている。

このように、縣市町村の担当者だけでなく、地域住民も防災情報システムを積極的に利用し、災害は防ぐことはできなかったにしても、人的被害は"0"を目指して減災に向かって一致協力していくことが重要で、そのためには自主防災組織の結成と活発な活動が必要である。

最後に、自然災害の減災を目指して熊本では産官学で協力して「熊本自然災害研究会」を組織し

活動している。学の参加者が少ないので皆さんのご参加をお願いしたい。

連絡先：熊本自然災害研究会事務局・北園

TEL & FAX : 096-342-3540

E-mail : kitazono@gpo.kumamoto-u.ac.jp

\*きたぞの よしと

工学部教授

#### 参考文献

- 1) 熊本県統合型防災情報システム：  
<http://www.bousai.pref.kumamoto.jp/>
- 2) 熊本県雨量情報：  
<http://www.jwaq.gr.jp/kumamoto/i/>

## 大学図書館関係会議を熊本市で開催

### ■九州地区国立大学図書館協会総会

平成17年4月21日に第35回九州地区国立大学図書館協会総会を開催しました。

### ■九州地区大学図書館協議会総会

平成17年4月22日に第56回九州地区大学図書館協議会総会を開催しました。「図書館サービスと著作権」と題して元九州大学教授黒澤節男氏による特別講演も行われました。

### ■熊本県大学図書館協議会総会

平成17年5月16日に熊本大学で第11回熊本県大学図書館協議会総会を開催しました。



九州地区国立大学図書館協会総会



九州地区大学図書館協議会総会

# 図書館諸統計 平成16年度

## Ⅰ. 利用統計

### (1) 開館日数・入館者数・貸出冊数

□は昨年度比増

	中央館	医学系分館	薬学部分館	計
開館日数	331	340	331	1,002
時間外開館日数(内数)	(286)	(310)	(279)	(875)
入館者数	334,387	160,312	59,779	554,478
時間外入館者数(内数)	(111,973)	(47,314)	(15,503)	(174,790)
24時間入館者数(内数)	(0)	(3,165)	(6,724)	(9,889)
貸出冊数	57,139	8,143	1,624	66,906

### (2) 相互利用(他大学等との現物貸借・文献複写)

		中央館	医学系分館	薬学部分館	計
現物貸借	依頼冊数	791	41	6	838
	受付冊数	274	13	4	291
文献複写	依頼件数	4,739	1,910	628	7,277
	受付件数	1,620	3,081	661	5,362

### (3) 貴重書等の利用〔中央館〕

	松井文庫	北岡文庫	その他
利用者数	5	353	9
利用件数	86	7,605	125

### (4) OPAC(蔵書検索システム)の利用

利用件数	223,338
------	---------

### (5) 視聴覚資料の利用〔中央館〕

ビデオ・LDの利用件数	1,487
CD-ROM※の利用件数	7

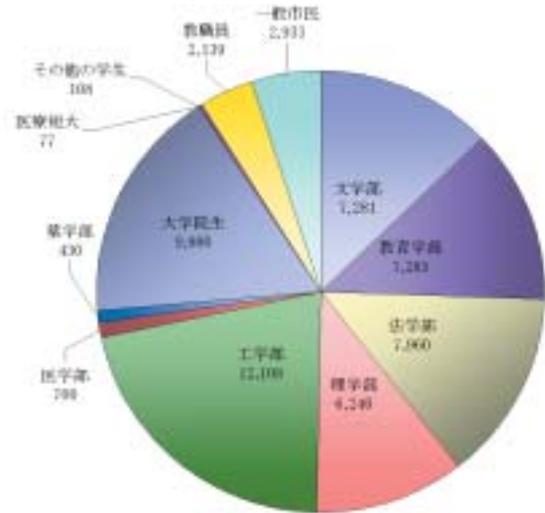
※スタンドアロンのみ

相互利用(文献複写依頼)件数が医・薬両分館では昨年までと同様、低下し続けているのに対し、中央館では逆に上昇の傾向を示している。  
今後の変化に注目したい。

(6) 分野別貸出冊数



(7) 学部別貸出冊数〔中央館〕

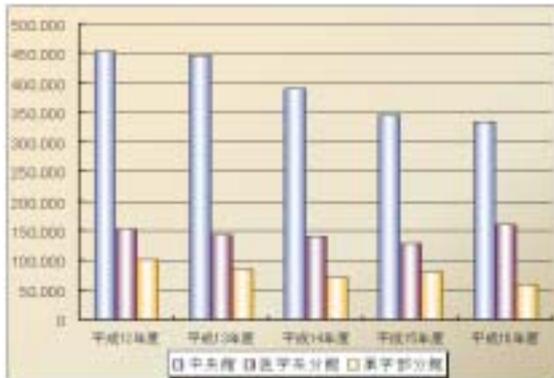


II. 年次推移（平成12～16年度）

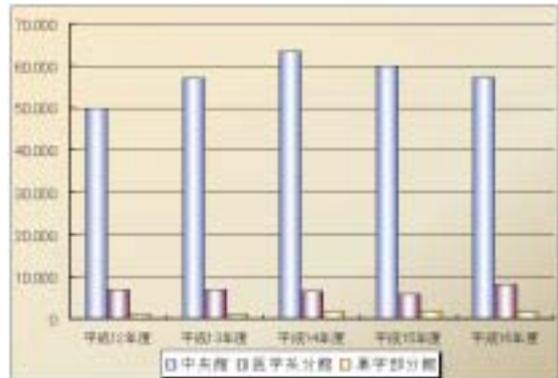
(1) 他大学との相互利用（文献複写）件数の変化



(2) 入館者数の変化



(3) 貸出冊数の変化



## Ⅲ. 受入統計

## (1) 年間受入冊数

		中央館			医学系分館			薬学部分館			計
		購入	寄贈等	小計	購入	寄贈等	小計	購入	寄贈等	小計	
図 書	和漢書	4,319	10	4,329	313	141	454	14	73	87	4,870
	洋 書	2,323	1,011	3,334	1,565	256	1,821	52	238	290	5,445
	計	6,642	1,021	7,663	1,878	397	2,275	66	311	377	10,315
雑 誌	日本語	1,021	0	1,021	231	657	888	27	95	122	2,031
	外国語	1,351	0	1,351	289	125	414	47	0	47	1,812
	計	2,372	0	2,372	520	782	1,302	74	95	169	3,843
新 聞	日本語	9	0	9	7	2	9	5	3	8	26
	外国語	2	0	2	1	0	1	0	0	0	3
	計	11	0	11	8	2	10	5	3	8	29

## (2) 蔵書数

		中央館	医学系分館	薬学部分館	計
図 書	和漢書	718,717	71,151	15,893	805,761
	洋 書	349,329	105,070	21,466	475,865
	計	1,068,046	176,221	37,359	1,281,626
雑 誌	日本語	9,563	2,214	556	12,333
	外国語	3,986	2,543	439	6,968
	計	13,549	4,757	995	19,301

## 第3回東京リエゾンオフィスイブニングセミナーに出展

平成17年3月8日に東京都港区芝浦のキャンパス・イノベーションセンターにおいて開催されたセミナー「ハーンの魅力と熊本の魅力」で講演とパネル展示を行いました。



本学教授陣とハーン近親者の方々

なお、来る9月後半にはハーン近親の方による講演会を附属図書館で催します。

どうぞご期待下さい。



## 最近寄贈された本学教員の著書

—中央館 ASPECT 熊大コーナーをご覧ください—

松浦雄介（文学部）

記憶の不確定性：社会学的探究 松浦雄介著 東信堂 2005

田中雄次（文学部）大江正昭（法学部）

グローカリズムの射程 田中雄次，大江正昭編 成文堂 2005

西槇 偉（文学部）

中国文人画家の近代：豊子愷の西洋美術受容と日本 西槇偉著 思文閣 2005

柳 治男（教育学部）

「学級」の歴史学：自明視された空間を疑う 柳治男著 講談社 2005

鈴木蓮一（教育学部）

ジョン・クレア詩集 R・K・R・ソントン；鈴木蓮一訳 英宝社 2004

大野龍浩（文学部）

シャーロット・ブロンテ150年後の『ヴィレット』 白井義昭編；泉忠司 [ほか] 執筆 彩流社 2005

湯川恭敏（大学院社会文化科学研究科）

人吉市方言調査報告 湯川恭敏著 熊本大学社会文化科学研究科言語学研究室 2005

里見繁美（文学部）

ヘンリー・ジェイムズと華麗な仲間たち：ジェイムズの創作世界 別府恵子，里見繁美編著 英宝社 2004

小松 裕（文学部）

鉾毒と政治 田中正造 [著]；由井正臣，小松裕編 岩波書店 2004

谷中の思想 田中正造 [著]；由井正臣，小松裕編 岩波書店 2005

### 図書館ガイダンスを実施

4月から5月にかけて、図書館を紹介する新入生ガイダンスや効果的な図書館利用の仕方



についての基礎セミナー「図書館活用法」、個別の授業支援や医学教育部大学院生のためのガイダンス



など、盛り沢山の内容で実施しました。

秋には中級編を開催する予定です。

## 委員会報告

## 最近の主要なテーマ

## 運営委員会

## ■平成16年度第2回附属図書館運営委員会（9月10日）

1. 平成16年度学生用図書購入費等予算配当及び配分（案）について
2. 図書館の収蔵計画について

## ■平成16年度第3回附属図書館運営委員会（10月19日）

1. 医学部分館について

## ■平成16年度第4回附属図書館運営委員会（11月11日）

1. 附属図書館に関わる規則等の改正・制定について
2. 附属図書館長選考日程について

## ■平成16年度第5回附属図書館運営委員会（11月30日）

1. 平成17年度のデータベースについて
2. 平成17年度の電子ジャーナルについて

## ■平成16年度第6回附属図書館運営委員会（3月10日）

1. 図書館の収蔵計画について
2. 図書資料の除籍に関わる検討項目について
3. 2005年度データベースの追加について

## ■平成17年度第1回附属図書館運営委員会（6月10日）

1. 平成17年度事業計画について
2. 平成17年度学生用図書購入費予算配当及び配分（案）について
3. 熊本大学附属図書館除籍要領（案）について
4. 専門委員会の設置について

## 専門委員会

## ■平成16年度第3回専門委員会（10月27日）

1. 平成17年度のデータベースについて

## ■平成16年度第4回専門委員会（11月5日）

1. 平成17年度の電子ジャーナルについて

## 医学系分館運営委員会

## ■平成16年度第3回医学部図書委員会（7月30日）

1. 2005年版外国雑誌購読調査について
2. 学生用図書の推薦について
3. 医学部分館の来年度以降の組織と同分館長選考について

## ■平成16年度第1回本荘・九品寺地区図書委員会（9月17日）

1. 本荘・九品寺地区図書館の図書委員会構成と名称について

平成17年度熊本大学附属図書館  
運営委員会委員

薬学部	館長	中山 仁
医学部(医学系分館)	分館長	三浦 洵
薬学部(薬学部分館)	分館長	大塚 雅巳
文学部	教授	福澤 清
教育学部	教授	堀畑 正臣
法学部	助教授	田村 耕一
理学部	教授	西野 宏
工学部	教授	山尾 敏孝
大学院社会文化科学研究科	助教授	秋吉 貴雄
大学院自然科学研究科	助教授	伊東 龍一
大学院法曹養成研究科	助教授	若色 敦子
医学部附属病院	助教授	高田 彰
教養教育実施機構	助教授	大野 龍浩
医療技術短期大学部	教授	石丸 靖二

2. 本荘・九品寺地区図書館長の選考方法について

## ■平成16年度第2回本荘・九品寺地区図書委員会（11月18日）

1. 本荘・九品寺地区図書館改組に関わる規則等の改正・制定について

## ■平成16年度第3回本荘・九品寺地区図書委員会（1月21日）

1. 医学系分館長選挙に関わるスケジュールについて
2. 医学系分館長候補者実施要領について
3. 選挙管理委員の推薦

## ■平成17年度第1回医学系分館運営委員会（6月16日）

1. 平成16年度決算（案）報告について
2. 平成17年度予算（案）について

## 薬学部分館運営委員会

## ■平成16年度第2回薬学部図書・情報委員会図書部会（7月2日）

1. 分館購読雑誌に関するアンケート結果について

## ■平成16年度第3回薬学部図書・情報委員会図書部会（11月16日）

1. 附属図書館に係わる規則等の改正・制定について
2. 平成17年度の電子ジャーナルについて

## 人事異動 (平成17年3月～6月)

### ■新任 (平成17年4月1日付)

附属図書館長

中山 仁 (薬学部分館長 薬学部教授)

### ■異動 (平成17年4月1日付)

人文社会科学系事務部総務係主任

河津美穂子 (学術情報課学術情報企画係主任)

図書館サービス課薬学情報サービス係長

安陪 光恭 (相互利用サービス係長)

図書館サービス課相互利用サービス係長

北野 典子 (薬学情報サービス係長)

学術情報課学術情報企画係主任

濱崎 清江 (医学・薬学等事務部学務課保健学系学務係主任)

図書館サービス課相互利用サービス係

牛島 直史 (学術情報課図書情報係)

### ■退任 (平成17年3月31日付)

岩岡 中正 (附属図書館長)

### ■退職 (平成17年3月31日付)

伊波ひとみ (図書館サービス課電子サービス係)

## 日誌 (平成17年3月～6月)

- 3/8 第3回東京リエゾンオフィスイブニング  
セミナー「ハーンの魅力と熊本の魅力」
- 3/10 第6回附属図書館運営委員会
- 3/19-21 中央館内装改修工事
- 4/10 ダイナマイト新歓
- 4/11-20 新入生ガイダンス
- 4/12 医学教育部大学院生ガイダンス
- 4/14 第1回係長会議
- 4/15 SciFinder 講習会
- 4/21-22 基礎セミナーガイダンス「図書館活用法」
- 4/21 第35回九州地区国立大学図書館協会総会
- 4/22 第56回九州地区大学図書館協議会総会
- 4/28 基礎セミナーガイダンス「図書館活用法」
- 5/6 基礎セミナーガイダンス「図書館活用法」  
ガイダンス・授業支援
- 5/12 ガイダンス・授業支援
- 5/16 第11回熊本県大学図書館協議会総会
- 5/16 ガイダンス・授業支援
- 5/23 第2回係長会議
- 5/27 ガイダンス・授業支援
- 6/10 第1回附属図書館運営委員会
- 6/16 第1回医学系分館運営委員会

### 埋蔵文化財発掘調査が完了

附属図書館南側の増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査が完了しました。



東光原：熊本大学附属図書館報  
第42号 平成17年7月刊

発行 熊本大学附属図書館  
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号  
TEL. 096(342)2273 FAX. 096(342)2210

編集 柿本義行 浦田博臣 秋吉陽一郎  
森下和博 坂崎直美 大倉 桂

URL <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>